

No.2914

日本・台湾・朝鮮・満洲における日本人保母の移動と保育実践

筑波大学大学院 人文社会科学研究所

現代語・現代文化専攻 博士後期課程

大石 茜

本研究では、日本が帝国主義のもとアジアへと領土を拡大していった時代を対象とし、内地だけではなく台湾・朝鮮・満洲といった外地を含めた大日本帝国という枠組みから、幼児教育について検討することを目的とした。特に幼児教育を担った幼稚園や保育園の保母に注目し、資料館所蔵の資料に限らず、関係者が個人で所蔵していた資料や証言を収集した。

引揚者が多く集う同窓会に協力を得て、アンケート調査を実施し、幼稚園・保育園に関する個人蔵の資料を発掘し、また、当時の幼稚園・保育園を知る方々から証言を得た。内地、台湾、朝鮮、満洲という地域を網羅することで、同じ「幼稚園」「保育園」という名称ではあるものの、実態には様々な差異が生じており、地域の課題に即した展開がなされていたことが明らかになった。

本研究調査において、これまで未発見だった資料や写真が多数見つかった。また、写真資料から、文字資料には残っていない幼稚園の存在が判明するなど、新しい幼児教育の事例も発見することができた。保母の経歴についても、引揚者の証言から情報を探り、外地へ渡った動機や、どこで幼児教育を学んだかなど、詳しい経緯が明らかとなった。官立や公立の保母養成学校のほか、ミッション系の保母養成学校の出身者も多く、外地の幼児教育に携わった背景は、一枚岩には収まらない、女性ならではの事情があったことも見えてきた。

幼稚園や保育園も、帝国主義の波に乗り外地へと展開したが、その保育内容は地域によって多様であり、また、総督府の方針と必ずしも重なり合うものではなかった。内地よりも就園率の高い地域もあり、また、独自に保育会を結成した地域もあるなど、非常に熱心な保母たちの活動が浮かび上がった。